

「受賞者の声」

テーマ 「障害者に対する職業能力開発」

副題 「障害のある訓練生の若年者ものづくり競技大会への取り組みについて」

執筆者 愛知障害者職業能力開発校 前島 和雄

この度は、職業能力開発論文コンクールにおいて、厚生労働大臣賞（入賞）という素晴らしい賞を賜り、光栄の至りに存じます。心から感謝申し上げます。

私は以前「障害者に対する職業能力開発」をテーマとして、平成17年に「聾啞者の為のC A I教材作成について」（独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構理事長賞）、平成21年に「障がいある訓練生の企業就労への取り組みと、就労促進と定着を図るための企業への提案」（独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構理事長賞）、平成27年度に「愛知障害者校における精神障害者等への支援強化策について」（厚生労働大臣賞（特選））論文に取りまとめました。今回の論文は、聴覚に障害のある訓練生がものづくり競技大会機械製図（C A D）競技に出場し、1人が敢闘賞を受賞したそこに至るまでの指導方法や、大会運営側への働きかけ、訓練生の心の動き等を記述しました。論文から、機械製図の技能の深さと面白さ、そして訓練生と共に歩んだ時間が伝わらうれしく思います。そして何より今回の受賞は、訓練生との出会いがあったからこそその受賞であり、職業訓練指導員として喜びはひとしおです。すべての受賞において、受賞の重みと障害のある方々への職業訓練の重要性を感じております。

職業能力開発論文コンクールは、職業訓練に携わる者にとって、役割と成果を社会へ伝える素晴らしい機会の場合と考えています。残念ながら、職業訓練指導員の取り組みを伝える機会は決して多くはありません。そのような中で、論文にまとめ発表することは、職業訓練指導員の大切な職務の一つと私は考えます。職業訓練指導員は、日々訓練生と接し、学校教育には無い様々な試みをしています。論文によって、多くの方々に職業訓練の素晴らしさを知っていただければと思います。そして、何より職業訓練により、多くの方々の雇用の機会が、更に増えることを望みます。

身体障害者始め、精神障害者、知的障害者等、就労を望む全ての障害のある方々が一様に働ける社会になることを心から望み、今後も引き続き訓練生の視点に立った職業訓練を目指して日々努力していく所存です。